

先日、義務教育振興都留市民集會に参加した。「今、子どもたちの生活の中で『ゲーム機・スマートフォン』における問題点」について話題提起され、テーブルディスカッションを行なった。

話題提起の中で印象的だったのは、携帯電話やスマートフォンにおける小中学生の多様な使い方である。特にSNS(ソーシャルネットワークサービス)の利用が急増しており、子どもたちはネット上でのコミュニケーションに依存する傾向にある。具体的な問題点として、個人情報流出やネットいじめ、大人が意外と知らないゲーム機からのネットアクセスが挙げられた。また、長時間や深夜の利用により体調不良や学習成績への影響もあるそうだ。

話し合いの中では、最新機器や、子どもたちを取り巻くネット環境に対し親が無知であり、最新のものに飛びつく前に、親子でそのメリット・デメリット(特に危険性)について十分に理解すること、使い方にいて明確なルールを設けること、禁止するだけではなく、上手な使い方を知ること等が大切であると確認された。

スマートフォン等最新機器の普及により、子育てをするにあたって、新たな課題や心配事が増えているのは、全国的な傾向であろう。

一方で、都留市には、古き良きものも存在している。御神楽である。「街かど情報TSURU」(村松新聞店発行)によると、現在市内には、約三十もの御神楽が伝承されているそうだ。

私の住む地域にも御神楽保存会があり、地域の大人が地域の子どもたちと関わりを持ちながら、御神楽を伝え続けている。毎月の練習会では、笛の練習のほか、祀られている神様や季節の行事について学ぶ。納涼会では、地域の公園をきれいに清掃した後、流しソーメンやすいか割りをして、大人も子どもも一緒に楽しむ楽しい時間を過ごす。新嘗祭(いも煮会)では、大人に教わりながら子どもがいも煮を作る。地域の大人との関わりの中で、子どもたちはコミュニケーションの仕方を学ぶ。

御神楽の伝承を通して、親だけではなく、地域の大人が地域の子どもを育む。地域の教育力低下が叫ばれている今、このような取り組みを市内各地で行っていることは、都留市の財産であろう。

子どもたちを取り巻くネット社会。全てが悪とは思わない。当然メリットもあるだろう。しかし、ネット社会が急速に発達する今だからこそ、地域社会と子どもたちとの関わり、人と人との対面コミュニケーションを大切にしていきたい。

連載・青少年健全育成シリーズ 第268回

「大切にしたいもの」

青少年の声かけあいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』



毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

広報「つる」広告募集!

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか?
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます!

問合せ: 行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄